

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200253	事業の開始年月日	平成27年3月1日	
		指定年月日	平成27年3月1日	
法人名	長谷川介護サービス株式会社			
事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原			
所在地	(211-0053)			
	神奈川県川崎市中原区上小田中2-40-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月20日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様、ご家族様が安全に安心して生活でき、温かい雰囲気は何より大切にしています。自宅のでの生活と同じように一緒にお食事を作り、自分のできる事から日常生活めりはりになうように日々取り組んでいます。又、毎月の外食レクリエーションや季節ごとの行事(納涼祭やクリスマス会)をご入居者様が楽しめるように力を入れています。地域交流として近隣の方との花火大会や、神輿に参加、高校生のボランティアに来ていただき、合唱していただきました。私たちは、『あなたに会えて良かった』と言われるホーム作りをしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年2月18日	評価機関 評価決定日	平成29年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南武線の「武蔵新城駅」北口から商店街を通り抜け、徒歩9分の便利なところにあります。周囲は静かな住宅地で、3階建てビルの2・3階です。運営法人は首都圏を中心に介護事業を展開しており、1階は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所の開設が準備されています。

<優れている点>

隣地に畑があり季節を楽しめると共に、敷地内にも菜園があって野菜作りが楽しめる環境です。道路に面した玄関前に広い駐車場があり、夏祭り神輿の休憩場所として提供し、地域交流に活用しています。建物内は、個室及び生活リハビリテーションに活用できる広い食堂兼居間があります。多目的室などもあり、きれいでゆったりした住環境となっています。開設2年目ですが、経験豊富な職員がリーダーシップを発揮して他職員を指導し、チームワーク良く、熱心に介護サービスを提供しています。利用者のトイレ誘導は、機能訓練となる手引き歩行支援を行うことにより、トイレでの自立排泄を支援して日中オムツゼロを実現しています。一週間に1回、昼食時などの献立を手作りで調理することで、利用者の好みを反映すると共に、変化のある食事を楽しんでいます。

<工夫点>

居室担当者が利用者の生活支援について毎月点検シートを作成し、サービス品質を維持すると共に、利用者との関係づくりをしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの地域に根差した家庭の延長線であるサービスを常に意識して介護サービスの提供をしています。又、ケアカンファレンスや全体会議で意識の向上とケアの統一化を図っています。	法人全職員から公募して決定した介護理念「私たちの願いはお客様の笑顔とご家族の安心です」を掲げています。どのような介護を目指すのかを具体的に「介護十訓」として定め、共有して介護サービスに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会のお祭りに参加させていただいたり、近隣の方と挨拶をするなど地域交流として行いました。又、近隣神社に初詣でやお買い物など地域との交流を図った	近所の散歩ではコンビニエンスストアや花屋などへ立ち寄り、挨拶や会話を交わしています。町内会の夏祭り神輿の休憩場所として玄関前を提供しています。クリスマス会では地元の高校生の訪問があります。事業所開設から2年で地域との交流はこれからです。	町内会会長と話ができるようになっていきましたので、事業所の消防訓練見学への誘いや地域行事への参加など、今後、具体的な交流活動を積み重ねていくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	川崎市の介護フェアに参加や地域包括との状況共有に努めた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で防災や風水害、感染症での取組みの報告やご家族様のご要望を伺いながらサービス向上に向けて一つ一つ取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況、行事の報告および、事業所から家族への周知事項、お願いすることなどを説明しています。現在は家族のみの参加で、家族からの要望などについて話し合う機会にもなっています。	町内会会長、地域包括支援センター、民生委員など外部の参加を得て、会議を地域の理解と支援を得る場としていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括や行政の生保担当者など連絡を密に取りサービスの質の向上、協力関係を築いた。	2ヶ月ごとに開催されるグループホーム協議会に参加しています。市、地域包括支援センターがメンバーで、意見交換を行っています。近隣の事業所をお互いに訪問し合う「見学会」などの交流について話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関については設備上オートロックになっているが、行動の自由を妨げる言動・行動が内容に日々のケアに努めている。身体拘束への研修会も行い職員への理解も深める努力をしている。	事業所内に身体拘束防止委員会があり、身体拘束ゼロへの手引きをもとに具体的なケアについて研修を行っています。職員は日々のケアの中で、どのようにしたら拘束を無くせるか取り組んでいます。エレベーターで各階と1階の玄関まで自由に行けるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の芽を生まない為に虐待が起こるメカニズムや要因について実例を通して施設内研修を行い、意識向上を図っています。又、日々虐待が見過ごされる事がないような環境作りと状況把握に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護の方や後見制度について職場内での理解は浅。今後も職場内で研修をしていき理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や身元引受人変更等については、その方に合わせてわかりやすくご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様には、面会時や定期的な様子の連絡を行い、要望を伺う機会を作っている。	家族が訪問した際に職員が声を掛け、要望や意見を聞くと共に、運営推進会議で家族から聞いたり、意見交換をしています。法人として年1回お客様満足度アンケートを実施し、結果を報告しています。外出レクリエーションに反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やケアカンファレンスを毎月行い、職員の意見を聞く機会を作っている。又、日ごろから不安や悩みがないか必ず、意識的に全職員とコミュニケーションを図っている。	毎月の全体会議やカンファレンスにおいて意見を出し合うことに力を入れています。職員の提案で、事業所一括で仕入れていた食材をユニット別にするによって効率化し、業務改善につながっています。管理者が年2回全職員と個別面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修や施設内研修を行っている。職員のやりがいにつながる工夫や新人育成については、人事評価を取り入れ個々の習熟度や様子に合わせて目標設定を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修の活用。社外研修については、随時案内を回覧し情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他施設職員との交流や勉強会の参加などサービスの質を向上させる取組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居者様の悩みや不安、送りたい生活をつかみ、安心できるように一つ一つ不安な様子を寄り添いをする。こまめに声掛けをしていき信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の悩みや不安、してほしい生活等のニーズをつかみ、家族が安心できるようにこまめにご家族様へ連絡をしていく事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントの実施、介護を提供する上でご本人様やご家族様にニーズに合わせた形で安全に生活していただく為に必要なサービスの軸を決めてプラン作成を行い、サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	対話を多く持ち悩みの共有解決に努めて信頼関係、支えあう関係作りを行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とも入居者の課題・悩みを共有し一緒に解決をしていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者同士、馴染みの関係を構築できるように日々関わり合いを多く持っている。また、職員も顔見知りができるようにシフト調整している。	入居時に本人と家族の希望を把握しフェイスシートに記録するとともに本人の日々の声を聞き、ケアに反映しています。利用者が入居前に利用していたかかりつけ医への利用希望があれば、本人の関係継続の一つとして大切にし、支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションや食事の際など交流を多く持つように働きかけ利用者同士の関係支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	色々な経過で退去されても、ご家族との関係を維持し、いつでも相談ができるように声掛けをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者視点でのケアを意識して支援を心掛けている。職員都合ではなく入居者の想いを把握し大切にしている。	利用者ごとに居室担当者の正副を決め、本人の生活をしっかり支えることが思いを叶える基本と考えています。生活支援の毎月点検シートを作成してケアの質にばらつきのないようにしています。気付きシートで職員の気付き力を高める研修もしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの情報や日々の会話、ご家族等のお話から生活歴・習慣など把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人に合った支援を心掛け、入居者のできる事・できない事を把握し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やケアカンファレンス等でモニタリングと介護計画を進めている。	ケアカンファレンスで利用者についてのちょっとした課題などの気づきをタイムリーに共有し、ケアに反映しています。ケアマネジャーがサービス担当者会議を開催し、居室担当者の意見や家族の意向を反映して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな情報も気づきと考へ、介護記録に記載し、情報の共有に努め介護計画に反映をはせている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	フォーマル・インフォーマルサービスを互いに有効利用しサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	包括やボランティアなどそれぞれの地域資源を把握しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診の際、情報を密に行い、適切な医療が受けれるようにしている。	事業所の協力医として、隔週の内科医と毎週の歯科医・看護師の往診体制があります。かかりつけの認知症専門医や皮膚科受診などは家族や職員が付き添っています。往診医とは「居宅療養管理指導書」などで情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護を利用し、健康チェックをとして入居者の体調管理を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院を連絡を密のして、スムーズな退院、退院後の支援を相談して病院との信頼関係作りも務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でもできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の指針を定め、ご家族に説明を行い安心して暮らせる体制の構築に努めている。	入居時に、重度化した場合の緊急時の対応方法について、利用者や家族に希望を確認しています。法人の「どなたでも積極的に受入れます」との方針のもと、事業所でも終末期や看取りの体制づくりをしたいと考えており、これから職員研修などに取組んでいくところです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急マニュアルの整備、並びに勉強会、状況判断ができるように日々、指導や情報の共有に努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練の実施を行い災害対策を講じている。	年2回、日中と夜間を想定した消防訓練を実施しています。スプリンクラーや火災報知器などの設備点検を定期的に行い、消防署へ報告しています。3日分の備蓄食料をリスト化し、防災対策機器とともに保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の尊厳を大切にして、人生の先輩として声掛けをしている。また、プライバシーの配慮にも気を使い他者に把握できないよう声掛けや対応をしている。	「お客様の尊厳とその人らしさを守ります」を介護十訓に掲げ、職員の意識付けを図っています。具体的な接遇方法を研修で確認し、利用者への呼びかけも「さんづけ」に統一しています。トイレや入浴時のほか、夜間の居室プライバシー確保のため、ドア閉めを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の量や食べたいものなど入居者に確認を取りながら日々の支援に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常の入居者視点を意識して、職員都合にならずに、一人一人にあったペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	静養にも気を配り、男性らしい、女性らしい身だしなみができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の嗜好品の把握や食形態の検討など、より食事が安心・安全・楽しく召し上がれるようにしている。	業者からの食材提供に加え、ご飯と汁物を職員が調理しています。週に一度、職員が手料理を提供し、変化を楽しんでいます。利用者が書いた「今日のメニュー」を掲示して話題にしています。盛付けや食器拭き、材料を切るなどを利用者に手伝ってもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェックシートを使い、食事・水分量の把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを行うとともに訪問歯科を利用し日々口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄、自然排尿・排便を心掛け排泄介助を行う。	全介助の人であっても先入観を持たないよう職員に指導し、オムツ使用者ゼロを継続しています。パットの使用も必要最低限に止め、自立排泄を支援しています。利用者の習慣を見極め、食事前と後の声掛けを利用者ごとに使い分けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェックシートを使い、排便量の確認をしている。都度、状況に合わせて下剤の服用を行い便秘の解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日は決まってしまうが、入浴の順番は都度、入居者に確認を取りながら入っていただいている。	冬季はエアコンでヒートショック防止を図っています。入浴前のバイタルチェックと入浴後の水分補給、肌の乾燥予防により体調管理をしています。入浴剤を活用したり好みのトリートメントを用意して、入浴を楽しむことを支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムに合わせ、その方、その方に合わせた入眠時間の確保に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	都度、薬の内容を確認し服薬をしている。服薬している薬の内容も小胞戦闘で把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、画一的にならないようにレクの実施などで役割・楽しみへの支援に努める。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩やご家族との外出など定期的な外出を行っている。	散歩の途中で、馴染みの花屋やコンビニエンスストアに立ち寄ることがあります。定期的に家族と散歩したり、正月などに外泊をする利用者もいます。気候の良い時期には、ワゴン車を借りて等々力緑地へ桜やアジサイを見に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、入居者が金銭を持つことがしていないが都度使いたいときに、立替金を利用して不自由なく利用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者個人で携帯電話の保持や手紙を書く環境は整備されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住宅地にある為、周りの生活音や光も十分に取り入れられ生活感を感じられる環境になっている	玄関に職員の紹介写真や季節の飾り付けがあります。新しく快適なリビングには利用者の習字や切り絵が飾られ、ホワイトボードに大きなカレンダーを貼っています。回廊タイプの広い廊下は、医師のリハビリ指導やトイレ使用時のプライバシー確保に役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々にくつろげる時間と場所を提供できるように工夫している。居室はすべて個室の為、一人に慣れる環境も整っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても、不自由がないようにご家庭で使っていたダンスや食器を使っただけ使ったものを使用させていただいている。	エアコン・ベッド・カーテンのほか、洗面台とケアコールが備え付けられています。カーテンは好みのものに変えることもできます。利用者は、テレビや冷蔵庫、ハンガー掛け、整理ダンス、写真立て、ぬいぐるみなどで居心地よい個室空間を確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	掲示物の工夫や福祉用具の活用など、障害があっても自立して生活できるように支援している。		

事業所名	イリーゼグループホーム川崎中原
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの地域に根差した家庭の延長線であるサービスを常に意識して介護サービスの提供をしています。又、ケアカンファレンスや全体会議で意識の向上とケアの統一化を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会のお祭りに参加させていただいたり、近隣の方と挨拶をするなど地域交流として行いました。又、近隣神社に初詣でやお買い物など地域との交流を図った		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	川崎市の介護フェアに参加や地域包括との状況共有に努めた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で防災や風水害、感染症での取組みの報告やご家族様のご要望を伺いながらサービス向上に向けて一つ一つ取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括や行政の生保担当者など連絡を密に取りサービスの質の向上、協力関係を築いた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関については設備上オートロックになっているが、行動の自由を妨げる言動・行動が内容に日々のケアに努めている。身体拘束への研修会も行い職員への理解も深める努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の芽を生まない為に虐待が起こるメカニズムや要因について実例を通して施設内研修を行い、意識向上を図っています。又、日々虐待が見過ごされる事がないような環境作りと状況把握に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	生活保護の方や後見制度について職場内での理解は浅。今後も職場内で研修をしていき理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や身元引受人変更等については、その方に合わせてわかりやすくご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様には、面会時や定期的な様子の連絡を行い、要望を伺う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やケアカンファレンスを毎月行い、職員の意見を聞く機会を作っている。又、日ごろから不安や悩みがないか必ず、意識的に全職員とコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修や施設内研修を行っている。職員のやりがいにつなげる工夫や新人育成については、人事評価を取り入れ個々の習熟度や様子に合わせて目標設定を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内の入社時研修やフォローアップ研修の活用。社外研修については、随時案内を回覧し情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他施設職員との交流や勉強会の参加などサービスの質を向上させる取組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居者の悩みや不安、送りたい生活をつかみ、安心できるように一つ一つ不安な様子を寄り添いをする。こまめに声掛けをしていき信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の悩みや不安、してほしい生活等のニーズをつかみ、家族が安心できるようにこまめにご家族様へ連絡をしていく事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントの実施、介護を提供する上でご本人様やご家族様にニーズに合わせた形で安全に生活していただく為に必要なサービスの軸を決めてプラン作成を行い、サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	対話を多く持ち悩みの共有解決に努めて信頼関係、支えあう関係作りを行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とも入居者の課題・悩みを共有し一緒に解決をしていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者同士、馴染みの関係を構築できるように日々関わり合いを多く持っている。また、職員も顔見知りができるようにシフト調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションや食事の際など交流を多く持つように働きかけ利用者同士の関係支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	色々な経過で退去されても、ご家族との関係を維持し、いつでも相談ができるように声掛けをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者視点でのケアを意識して支援を心掛けている。職員都合ではなく入居者の想いを把握し大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの情報や日々の会話、ご家族等のお話から生活歴・習慣など把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人に合った支援を心掛け、入居者のできる事・できない事を把握し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やケアカンファレンス等でモニタリングと介護計画を進めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな情報も気づきと考え、介護記録に記載し、情報の共有に努め介護計画に反映をはせている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	フォーマル・インフォーマルサービスを互いに有効利用しサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	包括やボランティアなどそれぞれの地域資源を把握しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診の際、情報を密に行い、適切な医療が受けれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護を利用し、健康チェックをとして入居者の体調管理を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院を連絡を密のして、スムーズな退院、退院後の支援を相談して病院との信頼関係作りも務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の指針を定め、ご家族に説明を行い安心して暮らせる体制の構築に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急マニュアルの整備、並びに勉強会、状況判断ができるように日々、指導や情報の共有に努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練の実施を行い災害対策を講じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の尊厳を大切にして、人生の先輩として声掛けをしている。また、プライバシーの配慮にも気を使い他者に把握できないよう声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の量や食べたいものなど入居者に確認を取りながら日々の支援に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常の入居者視点を意識して、職員都合にならずに、一人一人にあったペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	静養にも気を配り、男性らしい、女性らしい身だしなみができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の嗜好品の把握や食形態の検討など、より食事が安心・安全・楽しく召し上がれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェックシートを使い、食事・水分量の把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを行うとともに訪問歯科を利用し日々口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄、自然排尿・排便を心掛け排泄介助を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェックシートを使い、排便量の確認をしている。都度、状況に合わせて下剤の服用を行い便秘の解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日は決まってしまうが、入浴の順番は都度、入居者に確認を取りながら入っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムに合わせ、その方、その方に合わせた入眠時間の確保に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	都度、薬の内容を確認し服薬をしている。服薬している薬の内容も小胞戦闘で把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、画一的にならないようにレクの実施などで役割・楽しみ支援に努める。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩やご家族との外出など定期的な外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、入居者が金銭を持つことがしていないが都度使いたいときに、立替金を利用して不自由なく利用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者個人で携帯電話の保持や手紙を書く環境は整備されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住宅地にある為、周りの生活音や光も十分に取り入れられ生活感を感じられる環境になっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々にくつろげる時間と場所を提供できるように工夫している。居室はすべて個室の為、一人に慣れる環境も整っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても、不自由がないようにご家庭で使っていたタンスや食器を使っただけ使ったもの使用をいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	掲示物の工夫や福祉用具の活用など、障害があっても自立して生活できるように支援している。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 イリーゼグループホーム川崎中原

作成日： 平成29年4月18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	・事業所と地域の付き合い 近所のコンビニやお花屋などのお店や、近隣の町内会、高校等との交流は行って要るが日常的な交流までは行っていない	地域の方との交流を深め、地域行事への参加や日常的な交流活動を行っていく	町内会との交流を踏まえ、地域の一員として認められるように信頼関係の構築を図る。 近隣の方との交流を深め、顔なじみ・ご近所さんとして関わりを行い、お互いが行き来できる関係作りを行う。	12ヶ月
2	2	・運営推進会議を活かした取り組み 定期的な運営推進会議を開催しているが、地域の方の参加が少ない	町内会長、民生委員、地域包括支援センターの参加を集い、地域の理解と支援される場としていく	運営推進会議開催時は町内会、民生委員、地域包括支援センターの方々に参加を呼びかけ、外部の協力も得る。	6ヶ月
3	52	・居心地の良い共有空間作り 定期的な行事や日常の様子、クラブ活動等の写真、作品を掲示している。今後も継続的な取り組みを行っていく	施設全体が明るく、活気のある空間作りが出来る。 生活感を感じられる様な雰囲気が作れる	取り組みが画一的にならないように季節などに応じて掲示物の入れ替えやクラブ活動時の作品作りなどを行っていく。 入居者が明るく・楽しめる空間を作っていく	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月